



大明小学校

校長室から

令和3年10月4日

No. 9

文責 校長 穴山 直樹

読書のすすめ



先日の運動会では、保護者の皆様方のご理解とご協力を賜り、無事に実施することができました。本当にありがとうございました。今後ともご支援よろしく願いいたします。

昨年度もこの時期に各ご家庭に読書する時間の確保をお願いし、ご協力いただいたことと思います。今年度も引き続きのお願いとなります。

子どもたちの読書活動は、**情報を主体的に読み解き、考えの形成に生かしていく読書（インタラクティブ・リーディングと呼ぶそうです）**の必要性が指摘されています。小学校低学年における語彙の量と質の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘もあり、言語能力を育てていくことはとても大切なことです。また、幼児期から学童期にかけての読書能力形成が、その後の社会的・職業的な自立に向けた学びに影響するという意見もあります。

読書の習慣を身につけるにはご家庭での取り組みが不可欠です。秋の夜長をテレビやスマホ、パソコンやゲームを時にはお休みして、「ほっとできる時間帯」の夕食後や寝る前等の10分～15分くらい「読書会」ができたら楽しいですね。読み聞かせをしていただくのもよいかもかもしれません。お子さんと読んだ本の内容を紹介しあうのも面白いかもしれません。ぜひお試してください。楽しみながら読書の習慣が身につけばとても有意義ですね。



やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ

私が子どもたちに授業や部活動の指導をしているときにこころがけていたことです。現代の言葉に言い換えてわかりやすく言うと「**まずは実際に自分がやって見せて、しっかりと説明して理解してもらい、そのあと実践させてください。そしてその行為をほめてあげなければ、人を動かすことはできないでしょう。**」という意味だと思います。教育やしつけや人材育成のヒントがそこにはあると思います。実はこの言葉には続きがあります。（わたしも最近知ったのですが、）

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。」

「**やっている姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。**」という言葉です。これらの言葉が共通して述べているのは相手に敬意を払わないと動いてくれないということです。

私たち大人が様々な場面で子どもたちを教え育てていく過程で、相手（子ども）に敬意を払い、立場を尊重することは大前提であると思います。わたしもこうありたいと自問自答している毎日です。

